

草木ダムにおける防災操作（洪水調節）について ～台風第21号における洪水貯留効果～

草木ダムでは、台風第21号の降雨により防災操作を実施し、洪水の一部をダムに貯めて、下流河川の水位低減を図りました。

（概要）

1. 防災操作の実施

- ・10月18日21時から降り始めた降雨は23日9時まで、草木ダム流域の総雨量で215ミリを観測しました。
- ・草木ダムでは、10月1日より非洪水期に移行し貯水位が高い状態にありましたが、非常に強い台風21号の影響による大きな降雨が見込まれたことから、洪水を貯留するための容量を確保するため、事前にダムからの放流（予備放流）を行うことで、洪水前に貯水位を約10m低下させました。
- ・今回の防災操作では、最大で**毎秒約563立方メートル**の洪水に対して**毎秒約480立方メートル**をダムに貯留しました（累計約347万立方メートル[※]）。
- ・予備放流を行ったことで、通常の防災操作に比べて、ダムからの放流量を**毎秒約420立方メートル**低減し、下流の水位低減により貢献することができました。

2. 洪水被害の軽減（洪水貯留効果）

草木ダムによる洪水貯留により、渡良瀬川の花輪地点^{はなわ}（みどり市東町花輪東瀬橋付近）での最高水位は約2.34メートルでした。草木ダムが無かった場合の花輪地点の水位は、約3.18メートルと推測されるため、**約0.8メートルの水位低減効果（洪水貯留効果）があったものと推定されます。**

※東京ドームの容積（124万立方メートル）で換算すると、約2.7杯分に相当します。

3. 今後のダム操作について

予備放流で貯水位を一時的に下げましたが、平常時最高貯水位であるE.L.454メートルに向けて、今後、貯留に努めてまいります。



平成29年10月24日
独立行政法人水資源機構 草木ダム管理所

発表記者クラブ
桐生記者クラブ

問合せ先
独立行政法人水資源機構 草木ダム管理所
所長代理 ^{おの} 小野
住所：群馬県みどり市東町座間 ^{あずまちょうざま} 564-6
電話：0277-97-2131

平成29年10月23日洪水(台風21号)における草木ダムの効果

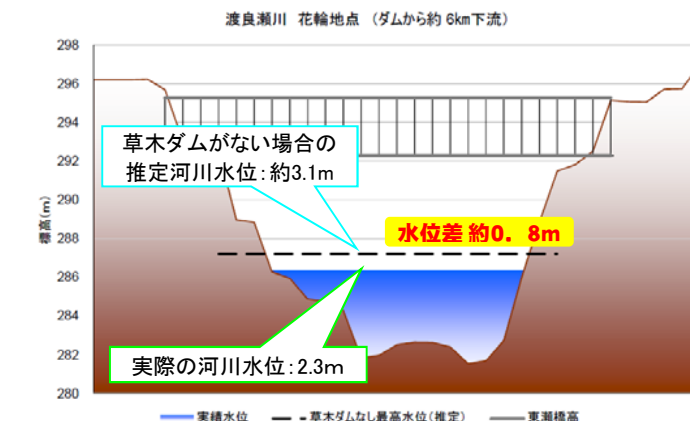
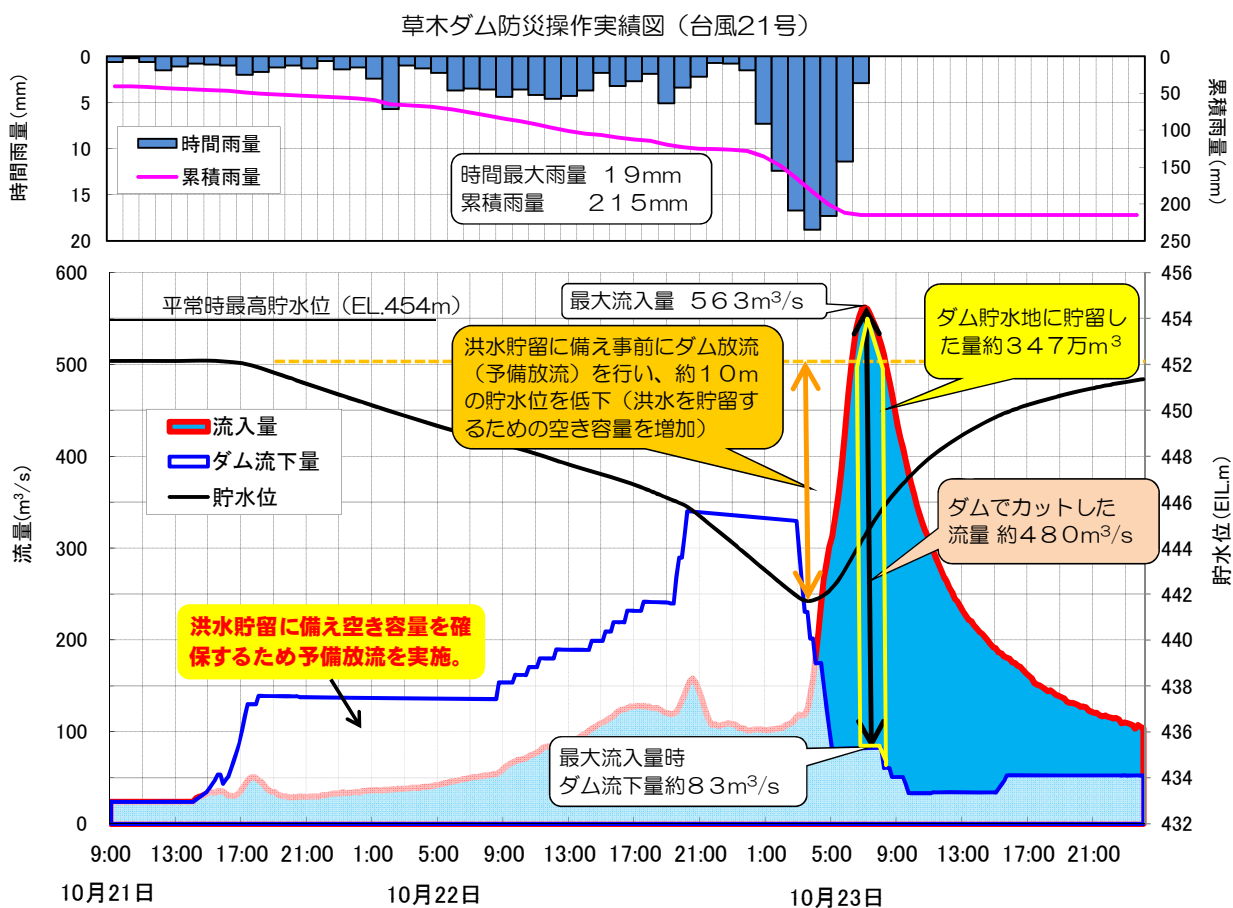
- ・草木ダムでは、今回の台風21号に伴う降雨による洪水をダムに貯留する防災操作を行いました。
- ・この防災操作による下流花輪地点(みどり市東町)での水位低下効果は、約0.8mと推定されます。

非常に強い台風21号は、10月21日21時から10月23日9時にかけて、総雨量**215mm**、時間最大雨量**19mm**(10月23日3時～4時)の大雨をもたらしました。

この降雨に伴い発生した、最大流入量約**563m³/s**の洪水に対して約**480m³/s**を草木ダムに貯留(累計**347万m³**)し、下流の洪水被害を軽減しました。

今回の防災操作では、貯水位が高い状態にあったため、事前にダムからの放流(予備放流)を行い、洪水前に約10m貯水位を低下させることで、通常の防災操作よりも**ダム放流量を約420m³/s低減**させることができました。

この防災操作により、下流の花輪地点で河川水位**2.34m**が観測されましたが、草木ダム管理所で試算を行った結果、ダムが無かった場合は、約**3.18m**と推測され、約**0.84m**の**水位低減効果**があったと推定されます。



※各数値は速報値